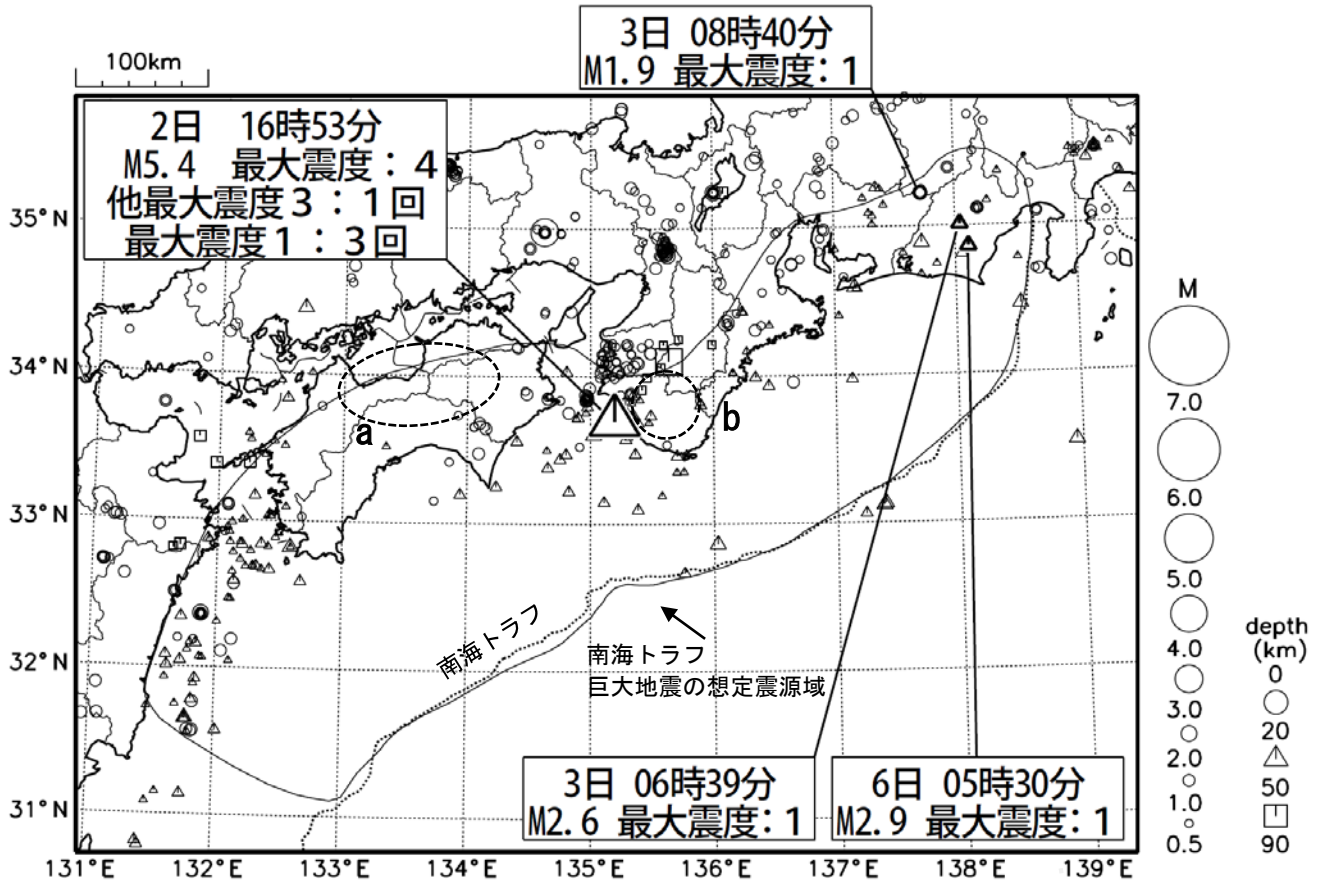


南海トラフ周辺の週間地震活動概況 No. 45

*震源時、震央地名、マグニチュード等は、再調査により修正することがある。

震央分布図（平成30年11月2日～11月8日）



“南海トラフ巨大地震の想定震源域で震度1以上を観測した地震もしくはM3.5以上の地震”及び“その他注目した地震”に「震源時、マグニチュード、最大震度」を付している（M $\geq$ 0.5、震源の深さ0～90km）。

[概況]

10月30日頃から11月5日頃にかけて徳島県北部から愛媛県東予付近、11月2日頃から6日頃にかけて和歌山県付近のプレート境界深部で短期的ゆっくりすべりが発生したと推定される。

2日16時53分に、紀伊水道の深さ44kmでM5.4の地震が発生した。

[主な地震活動]

・紀伊水道では、2日16時53分に深さ44kmでM5.4の地震（最大震度4）、5日08時19分に深さ45kmでM4.6の地震（最大震度3）が発生した。これらの地震を含め、最大震度1以上を観測する地震が5回発生するなど、ややまとまった地震活動となっている。これらの地震は、フィリピン海プレート内部で発生した。

[主な深部低周波地震（微動）活動※¹と地殻変動]

[領域a]10月30日以降、徳島県北部から愛媛県東予付近で深部低周波地震（微動）を観測している。深部低周波地震（微動）活動とほぼ同期して、10月30日頃から11月5日頃にかけて周辺に設置されている複数のひずみ計※²に変化が現れた。

[領域b]11月3日から6日に、和歌山県で深部低周波地震（微動）を観測した。

深部低周波地震（微動）活動とほぼ同期して、11月2日頃から6日頃にかけて周辺に設置されている複数のひずみ計※²に変化が現れた。

これらは、プレート境界深部において発生した短期的ゆっくりすべりに起因すると推定される。

※1：上の震央分布図には、震源決定精度が高い地震の震央のみを表示している。このため、震源決定精度が低い深部低周波地震（微動）の震央は表示していない。

※2：産業技術総合研究所のひずみ計。